

新型コロナウイルスに思う

総 務 藤 谷 知 良

新型コロナウイルスの感染が後を絶たず、全国を対象とした緊急事態宣言が五月末まで延期されました。どの新聞やテレビでも感染者数の増加や医療体制のひっ迫が叫ばれ、感染防止対策として不要不急の外出自粛や商店の自主休業が求められています。この広がりには全世界に及び、毎日何千人という方の尊い命が失われて行っています。

本山でも職員の勤務を二班に分け、万が一感染者が出た場合にも日々のお勤めや必要業務が滞ることがないような体制をとりました。また、ご参詣される方や職員等の健康を最優先とするため、納骨堂、進納所、茶所等の対面での業務を行う部署は閉じさせていただいております。

三月十九日には、世界的なデジタルアーティストである長谷川章氏によるデジタル掛け軸が献納

されました。極楽浄土をイメージした色鮮やかな光が御影堂を照らし、境内は幻想的な雰囲気につつまれました。しかし感染拡大防止のためテレビでの生中継開催となりました。

その中継の台本に、このような時だからこそ是非お参りして下さい、という風にまとめてほしいことが書かれていました。しかしそのような話ができるわけもなく、ディレクターには簡単に真宗の教えを説明し内容の変更をお願いしました。変更については了承いただいたものの、どこか納得いかないようでした。やはり一般の方にとってお寺参りは加持祈祷のように映っているのかと思いました。しかし、これほど科学が発達し医療の充実した現代において、何でも出来ると思っていた私たちが初めて人間の限界を目の当たりにし、誰に助けを求め何に救いを求めればいいのか真剣に考え始めたのではとも感じました。

今は感染拡大を防ぐことに注力しないといけない時期であり早く終息することを願います。しかし今回の事で人間の限界を知り、命の尊さや心のよりどころについて、また自分の生と死について今までと違った目線で見ることができるようになった今、本山や各寺院が道しるべとなれるように準備しておかなければと思います。

宗 達

宗 達 第一一四一号

宗達第一一三八号 令和二年三月二十一日午後一時三十分より津市稲葉町涅槃寺聞信講法主殿御親教中止となる

令和二年三月十七日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一〇八八号

宗告第一〇八三号千部法会

宗告第一〇八五号十万人講法会

宗告第一〇八六号戦没者追弔法会について参勤者（法中）を無しとする

令和二年三月十三日

宗 告 第 一 〇 八 九 号

宗告第一〇八一号 令和二年四月十九日真宗高田派専修寺北海道別院积尊花祭り女性の集い御親示を延期とする

令和二年三月十七日

宗務総長	宗務総長	宗務総長
大僧都	大僧都	大僧都
増田修誠	藤谷知良	藤谷知良
増田修誠	真置和徳	真置和徳
増田修誠	中僧都	中僧都
増田修誠	務	務

任 免

令和二年三月六日

企画諮問委員会委員を命ずる

松仙寺住職	的屋 隆宏
宗休寺住職	久世 宜昭
崇顕寺衆徒	上田 英典
顕正寺衆徒	眞弓 俊光

令和二年三月二十四日
宝物館運営委員会委員を命ずる

誓元寺住職	栗原 廣海
青巖寺住職	清水谷正尊
浄明寺住職	福山 蓮茂
報恩寺住職	芳川 賢史
延命寺衆徒	藤田 正知
蓮性寺衆徒	森下 妙迪
崇顕寺衆徒	上田 英典
顕正寺衆徒	眞弓 俊光

宝物館運営委員会委員を委嘱する

令和二年四月二十日

第百六十九宗議会議書記を命ずる

録 事	村上 英俊
録 事	塩崎 慶脩

組長交代

令和二年三月十日

愛知第六組組長を命ずる

徳林寺住職

林 晃亮

依請解其職 愛知第六組組長

平山 教導

令和二年三月三十一日

依請解其職 三重第一組西部・東部組長

藤山 眞哉

令和二年四月一日

三重第一組西部・東部組長を命ずる

智慧光院住職

玉樹 真祥

鈴木 公朗

住職

令和二年三月二十七日

愛知県名古屋市中南区本星崎町 海隣寺副住職 大矢 教明

補 海隣寺住職・任 海隣寺代表役員

依請解其職 海隣寺住職 眞月 教俊

三重県津市白山町 因誓寺衆徒 齋藤 浄光

補 因誓寺住職・任 因誓寺代表役員

依請解其職 因誓寺住職 齋藤 正見

三重県多気郡多気町 長盛寺衆徒 三室 堯久

補 長盛寺住職・任 長盛寺代表役員

令和二年三月三十一日

依請解其職 本法寺住職 粥見 英敏

得度

令和二年三月二十七日

三重県鈴鹿市西玉垣町

至心院 俊英 准上座格二等 正信寺衆徒 長松 俊佑

三重県鈴鹿市西条

西浄院 亮修 院家一等 心覺寺衆徒 桜井 亮輔

愛知県名古屋市中区門前町

徹法院 了迎 中老二等 来迎寺衆徒 宇佐美 迎

身分堂班

令和二年三月二十七日

列 其身一代堂班 院家二等、院家一等

院家首席二等、院家首席一等

准上座格三等

金剛寺衆徒 玉置 和誉

転属

令和元年七月一日

福井県福井市縫原町 西方寺衆徒に転属を許可する

真宗高田派専修寺関東別院衆徒 金森 宝樹

三・二〇	晨朝	少僧都	千草 篤昭
三・二一	晨朝	少僧都	長谷部行雄
日中	日中	少僧都	花山 光瑞
三・二二	晨朝	権大僧都	東雲 正乘
日中	日中	権大僧都	真昌 智海
三・二三	晨朝	権大僧都	浦井 宗司
日中	日中	少僧都	山中 真論

布教任命

讚佛会復演

三・二〇

日中

大僧都

清水谷正尊

三月御影堂常在説教(晨朝)

三・二一	律 師	隆 妙漣
三・二二	権中僧都	藤田 正知
三・二三	権中僧都	安藤 章仁
三・二四	権中僧都	田中 明誠
三・二五	権中僧都	中村 宜成
三・二六	権中僧都	里榮 秀教
三・二七	権大僧都	生桑 崇等
三・二八	大律師	戸田 栄信
三・二九	大律師	北島 大道
三・一〇	中僧都	佐藤 弘道
三・一一	律 師	北島 心淳
三・一二	中僧都	青木 義成
三・一三	少僧都	岡 知道

讚佛会

三・一七

晨朝

権中僧都

田中 明誠

三・一八

晨朝

権中僧都

鷺山 了悟

三・一九

日中

権少僧都

真置 信海

三・一九

晨朝

律 師

若林 妙百

三・一九

日中

権中僧都

中村 宜成

三・一四	權中僧都	中野	達照
三・一五	大律師	高島	光憲
三・一六	中僧都	戸田	惠信
三・二〇	御親	教	
三・二四	權大僧都	浦井	宗司
三・二五	少僧都	青木	妙法
三・二六	權少僧都	真置	信海
三・二七	少僧都	上田	英典
三・二八	律師	田中	唯聰
三・二九	中僧都	青木	義成
三・三〇	中僧都	青木	義成
三・三一	律師	水沼	碧水

三月御影堂常在説教（速夜・日中）

三・七	速夜	權中僧都	栗廼	隆興
三・八	日中	少僧都	藤澤	真樹
三・九	速夜	權中僧都	村上	英俊
三・一〇	日中	少僧都	山中	真諭
三・一五	速夜	大律師	北畠	大道
三・一六	日中	中僧都	青木	義成

千部法会（日中）

四・六	少僧都	千草	篤昭
四・七	權少僧都	真置	信海
四・八	律師	隆	妙灑

十萬人講法会（日中）

四・九	權大僧都	浦井	宗司
四・一〇	權大僧都	真昌	智海

戰没者追弔法会（日中）

四・一一	中僧都	青木	義成
------	-----	----	----

四月御影堂常在説教（晨朝）

四・一	權中僧都	里榮	秀教
四・二	權中僧都	安藤	章仁
四・三	律師	古芝	智泉
四・四	權大僧都	戸田	榮信
四・五	大僧都	上田	隆順
四・六	權中僧都	藤田	正知
四・七	少僧都	岡	知道
四・八	權中僧都	鷲山	了悟
四・九	少僧都	青木	妙法

四・一〇 権中僧都 田中 明誠

四・一一 中僧都 青木 義成

四・一二 律 師 若林 妙百

四・一三 権中僧都 中村 宜成

四・一四 少僧都 山中 真諭

四・一五 律 師 隆 妙灑

四・一六 権中僧都 田中 明誠

四・一七 権大僧都 東雲 正乘

四・一八 大律師 高島 光憲

四・一九 中僧都 戸田 恵信

四・二〇 律 師 水沼 碧水

四月御影堂常在説教（速夜・日中）

四・一五 速夜 権中僧都 栗廻 隆興

四・一六 日中 中僧都 青木 義成

※ウイルス対策のため、四月二十一日以降のお説教は中止になりました。

高田慈光院 月例法会

三・一〇、一六、二六 権大僧都 藤山 真哉

四・一〇、一六、二六 権中僧都 田中 明誠

高田報徳園 月例法会

三・一五 律 師 若林 妙百

敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和二年

二・十 三重県津市白山町山田野

清光寺前坊守 清原不二子

三・八 京都府京都市右京区龍安寺山田町

常樂寺前住職 梶村 昌壽

贈 少僧正

三・二十五 三重県津市白山町古市

千福寺坊守 三輪志ず子

四・三 三重県松阪市魚見町

常願寺前坊守 杜多 すみ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。

なお、掲載が遅くなり誠に申し訳ありませんでした。

三重第十四組 宝林寺
愛知第五組 満性寺
北海道 願誠寺

第四十回住職補任研修会報告

去る二月二十二日（土）午後より二十三日（日）午前中まで、

一泊二日にわたり住職補任研修会が、教師二名参加の下に開催されました。

尚、研修内容は次のとおりです。

真宗教義と高田派の歴史	九十分
声明	九十分
現状と課題（座談会）	六十分
宗教法人法・寺院規則	六十分
晨朝参拝・説教聴聞	九十分
住職道・布教道	九十分
法式作法	九十分
以上	

高田会館臨時休館のお知らせ

いつも高田会館をご愛顧頂き誠にありがとうございます。

厚生労働省から発表された「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」をふまえ、感染拡大防止に向け下記の通り「臨時休館」とさせていただきます。

【臨時休館の期間】四月六日～六月三十日まで

※今後、新型コロナウイルスの拡大の影響によっては期間を延長、短縮させていただきます。

・現在ご予約頂いておりますお客様はご対応させていただきます。

・予約の変更、御確認等は十時～十五時まで

お電話（〇五九―二三二―六〇七九）にて

ご対応させていただきます。

・臨時休館の間、高田本山唐門前「惣菜レストラン」

ン」（火曜定休日）にて名物伊勢芋とろろもご提供させていただきます。是非、ご利用下さい。

お客様にはご不便をお掛け致しますが、何卒御理解賜りますようお願い申し上げます。

高田会館支配人

TEL〇五九―二三二―六〇七九

FAX〇五九―二三二―二六五四

本山行事予定

（五月・六月）

五月六日～八日 堯祺上人御正當

五月二十一日 親鸞聖人降誕会

宗門のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、左記の行事が中止となります。

- ・五月十八日 布教伝道大会
 - ・五月二十一日 褒賞授与式（男子祖師寿表彰）
 - ・五月二十二日 檀信徒研修会
- 次回開催は本年十月を予定していますが、状況によって変更がございますのでご了承下さい。
- ・六月七日 高田派婦人連合大会
- お申し込み頂いた祖師寿の方には、お寺宛に表彰状と祖師寿章をお送りいたします。
- ・六月二十一日 高田派佛教保育講座
 - ・六月二十四日～二十五日 坊守研修旅行
- 今回予定していた行程は、改めて開催する予定です。
- ・六月二十七日～二十八日 高田派青年の集い

下付金のお知らせ

平成二十五年度分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

（令和元年五月三十一日付）

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五か年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。

真宗高田派共済会のご案内

真宗教学奨学金

真宗高田派の寺族で真宗教学に関する研究心旺盛な者に対して、奨学金を貸与します。

・高等学校生及び真宗各派の専修学院生	月額	2万円	若干名
・大学生及び大学院生	月額	4万円	若干名
・ ”	月額	8万円	”

提出書類：所定の申請書1通、在学証明書1通(学生証の写可)
返済に関する事項を熟知下さい。

奨励金

真宗高田派の僧侶が、定められた学校に入学したときに、奨励金を支給します。

・奨励金 4万円

提出書類：所定の申請書1通、入学証明書又は在学証明書1通
(学生証の写し可、合格通知書は不可)

定められた学校とは、下記に該当する学校及び学科です。

真宗各派の専修学院、私立高田高等学校、大学の真宗学科及び仏
教学科 短期大学の真宗学科及び仏教学科

上記の申請は毎年3月1日から5月末日までに行ってください。
申請に関する事項及び詳細につきましては共済会担当までお尋ね
下さい。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当まで
お尋ねください。

〒514-0114
三重県津市一身田町2819番地
真宗高田派宗務院内

真宗高田派共済会

電話 059-232-4171

F A X 059-232-1414

人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋



令和二年四月二十五日印刷
令和二年四月二十五日発行

三重県津市一身田町二八一九番地
電話（〇五九）二三三二―四一七一
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇一―一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三二―二〇七〇